

# 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 2 月 28 日

所属	サービス創造学部	職名	専任講師	氏名	大下 剛
研究課題	物流危機が生じる構造を明らかにするフレームワークの提示と物流危機解決のための政策に関する考察				
研究キーワード	物流危機・トラック運送事業者・流通政策	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	11.住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

本年度の研究成果としては、一般貨物運送事業において労働力不足が発生する構造の解明があげられる。完全競争市場において、人件費率が高い費用構造の産業では、低賃金・長時間労働が構造的に発生する関係を明らかにした。そのため、従来の産業組織論には言及されていない、参入規制強化の必要性を論じた。

さらに、アンケート調査結果から、トラックドライバーの離職および職種選択理由を明らかにした。他の職種と同様に低収入や長時間労働が離職原因として上位にあげられたが、拘束時間の長さは他職種では見られないトラックドライバーに特有の離職理由であった。

また、トラックドライバーの就職理由の回答として「車が好き」が最も多い理由となった。続いて多い理由は「比較的収入が多いから」であるが、他職種と比べて低収入とされる統計調査と矛盾する結果となった。想定される理由の一つには、長時間労働で低収入を補完している可能性があげられた。もう一つには、低賃金の産業もしくは職種内で労働者が循環している可能性が示された。

さらに、「ほかにすることない」理由でトラックドライバー職を選択している就労者は、他の理由で就職した就業者と比較して、トラックドライバー職の継続意向は低い結果が示された。景気循環の中で、不景気にトラックドライバー職を選択したものの、好景気になると他の職種へ移行する層の存在が想定される。職種自体の魅力を高める取り組みが、トラックドライバー職の定着に必要である点が示唆された。

以上の研究を通じて、トラックドライバー不足による物流危機を解決するための理論的・実践的な示唆を得られた。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

### 【論文（査読あり）】

大下剛（2021）「物流に対して競争政策がもたらす影響に関する研究」消費経済研究第 10 号、pp.81-90.

### 【著書・論文（査読なし）】

著書：大下剛（2021）『オムニチャネル小売業におけるロジスティクス統合』同友館

### 【学会発表等】

大下剛「トラック運送業界におけるドライバー不足発生構造に関する研究」日本消費経済学会第 46 回全国大会（中部大学：オンライン開催）2021 年 6 月

大下剛「貨物自動車運送事業におけるトラックドライバー数の増減に関する一考察」日本物流学会第 38 回全国大会（神奈川大学：オンライン開催）2021 年 9 月

町田一兵・菊池一夫・大下剛「物流業界におけるニッチ型プラットフォーム成立の可能性と課題ー株式会社オープンロジを中心にしてー」日本物流学会第38回全国大会（神奈川大学：オンライン開催）2021年9月  
大下剛「宅配便市場における価格設定に関する考察ー産業組織論の視点からー」日本消費経済学会関西西部会（オンライン開催）2022年2月

### 3. 主な経費

日本物流学会全国大会で発表した「貨物自動車運送事業におけるトラックドライバー数の増減に関する一考察」に関するアンケート調査に使用した。また、文献レビューのための書籍購入、研究活動を進めるための文具代、学会参加費等に使用した。

### 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

該当なし